

東京新聞 2007年5月21日(月)〔8〕暮らし

遊びつつ マナーやモラル 身につけよう



「遊びながら情報モラルを身につけさせよう」と、有識者らでつくる「せたがやネチケツト研究チーム」が解説付きで作成した。冒頭の歌が教えるのは、「ネットは世界につながり、書いたことは不特定多数の人が見える」と。送信相手とだけのメールのやりとりのつもりでも、「軽く書いた同級生の悪口もクラスや社会



世田谷区が作った「ネチケツトかるた」。取り札には子どもに絵を描いてもらう。

（次回は二十八日掲載）
「ギャラリー」で紹介している。
のせたがやネチケツト
www.canvas.ws)
ホームページ (http://
PO法人CANVASの
かるたの読み札は、N

◇
対応する力を身につけさせることが大事」と話す。
る。危険を自ら察知し、
よう」としても限界がある。
危険から子どもを遠ざけ
を学ばせてほしい」。
尾花さんも「ネットの
は中学から持つ子が多い
が、使い始めて危険に遭
ってからは遅い。まだ
携帯やパソコンを使って
いない早い時期にマナー

世田谷区が作製「ネチケツトかるた」

「掲示板 たくさんの人が見てるから ため口悪口 書かすにおこう」
世田谷区が作ったかるたは、百人一首形式。五・七・五・七・七の短歌ふうにマナーやルールを言い表し、読み上げて、下の句と絵を描いた札を取る。
全部で四十八組あり、

「無料できさ タウンロードができるって タダより怖いものはなし」
かるたは、出会い系やアダルトサイトなど危険サイトへの注意も促す。
「アダルトには高額請求などにつながる仕掛けがある」と、研究チームメンバーでIT教育アドバイザーの尾花紀子さん。
だが、ネット利用の際に教えるのは実は、「多くは現実社会で教えるの

「他人の情報を勝手に流さない」「やりとりするときに相手を気遣う」といったモラルや注意も日常的に必要なことだ。
「もらったメール 転送公開する前に 本人に必ず 確認しようね」

具体例を読み札に

「友達と ケンカしちゃってムカついた それでも書かない ネットで悪口」。携帯電話やパソコンが普及した今、インターネット上のトラブルや危険に対応する力を付ける教育が必要だ。東京都世田谷区が作った「ネチケツトかるた」から考えたい。
(岩岡千景)

「18禁 アダルトサイトや出会い系 子どもは入っちゃいけないよ」
「無料できさ タウンロードができるって タダより怖いものはなし」
かるたは、出会い系やアダルトサイトなど危険サイトへの注意も促す。
「アダルトには高額請求などにつながる仕掛けがある」と、研究チームメンバーでIT教育アドバイザーの尾花紀子さん。
だが、ネット利用の際に教えるのは実は、「多くは現実社会で教えるの

と同じマナーやモラル」と強調する。
「メル友は どの誰だかわからない 知らない人とは 会わぬが一番」
尾花さんは「危険なサイトには近づかないと教えるのは、新宿・歌舞伎町や渋谷など繁華街の危ない場所に行かない、知らない人についていっちゃいけないと、親が子どもに言うのと同じ」と言う。

自ら危険感じ 対処する能力 つけさせて

「ケータイのメールの返信来なくても 気長に待とう 腹を立てずに」
そして大事なものは、万が一トラブルに巻き込まれそうになったら、親に相談する環境をつくっておくこと。そのために、かるたはこう呼びかける。
「ケータイで 困ったことがあったなら 大人を借して 相談しよう」
「使い始める前」大切

かるたは、同区内の児童館などで子どもにも遊ばせて活用し、交流のある三十五自治体に配布。今後、学校の教材にすることも検討していく。
石戸副理事長は「携帯は中学から持つ子が多いが、使い始めて危険に遭ってからは遅い。まだ携帯やパソコンを使っていない早い時期にマナーを学ばせてほしい」。